eve autonomy

FUYO LEASE GROUP



空港業務DX推進官民連絡会

制限区域内外における自動搬送について

発表企業（連名）
・株式会社eve autonomy
・芙蓉総合リース株式会社

November 12th, 2026
eve autonomy, Inc.

eve auto

eve autonomyの取組

株式会社eve autonomyについて

eve autonomy

2020年
高品質で実績あるゴルフカーを製造するヤマハ発動機と
オープンソースの自動運転ソフトウェア「Autoware」の開発を
主導するTIER IVの合弁会社として設立

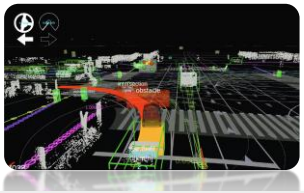
YAMAHA
Revs Your Heart





信頼と実績の開発・製造
ゴルフカー車両技術

TIER IV

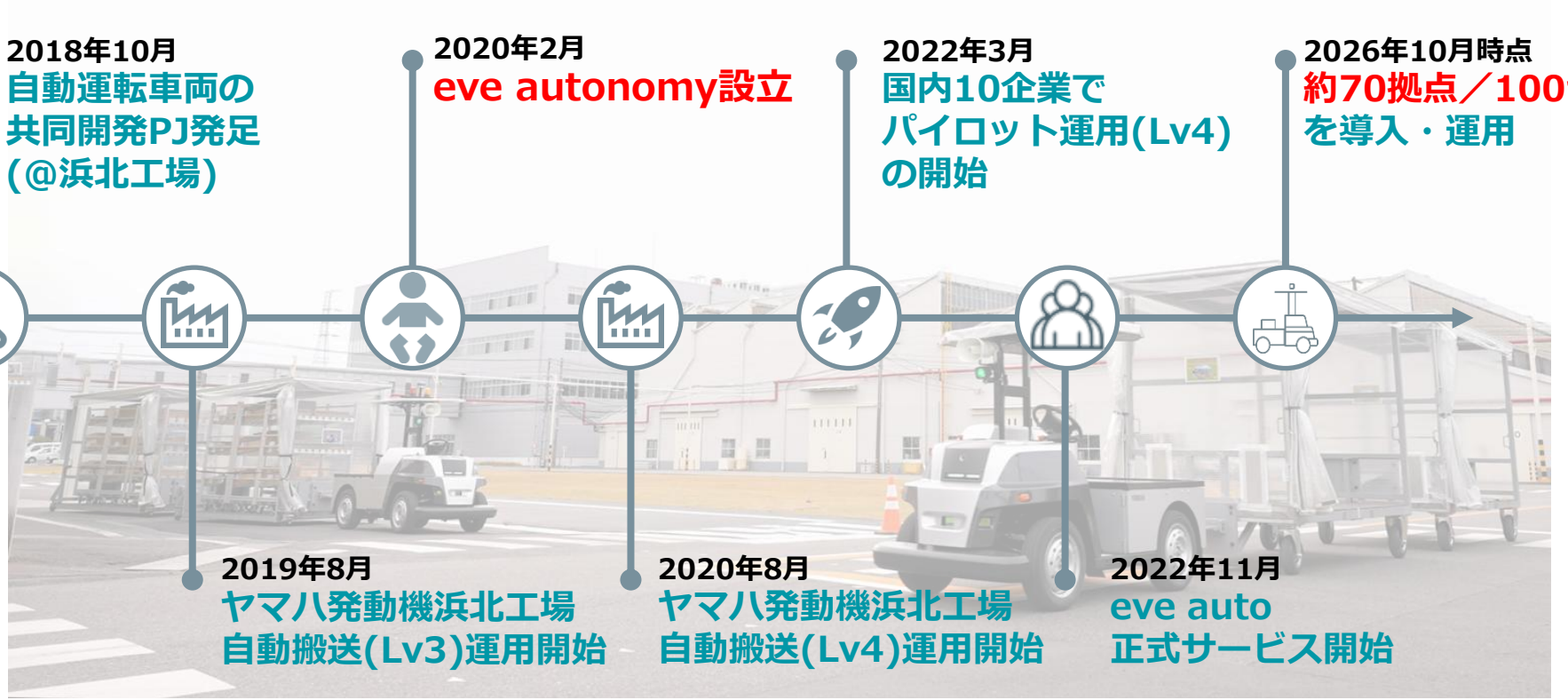



世界最先端の自動運転技術
Autowareによるレベル4自動運転

© 2026 eve autonomy, Inc.

沿　革

自動運転レベル4での無人搬送ソリューションを実用化ししっかりとお客様にご提供中



2018年10月
自動運転車両の
共同開発PJ発足
(@浜北工場)

2019年8月
ヤマハ発動機浜北工場
自動搬送(Lv3)運用開始

2020年2月
eve autonomy設立

2020年8月
ヤマハ発動機浜北工場
自動搬送(Lv4)運用開始

2022年3月
国内10企業で
パイロット運用(Lv4)
の開始

2022年11月
eve auto
正式サービス開始

2026年10月時点
約70拠点／100台
を導入・運用

© 2026 eve autonomy, Inc.

eve autoの自動搬送車両 - 屋内外の走行に最適！

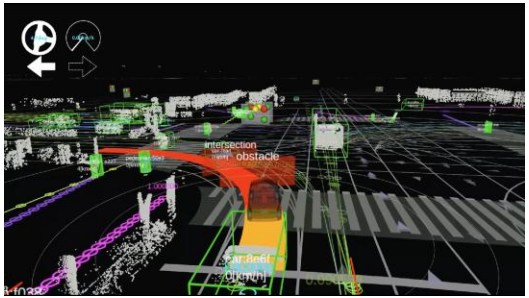


【車両】ヤマハ発動機のゴルフカー車両技術を活用



- ヤマハ発動機グループ全体で年間約７万台の販売実績があるゴルフカー
- **屋内走行も想定して30%小型化し小回り性を向上**

【自動運転】TIER ⅣのAutowareを活用







- 世界発の自動運転オープンソースソフトウェア（20以上の国、500以上の企業、30種類以上の車両で利用
- **物流用に必要な機能にスリム化して搭載**

© 2026 eve autonomy, Inc.

eve auto（イヴ･オート）とは

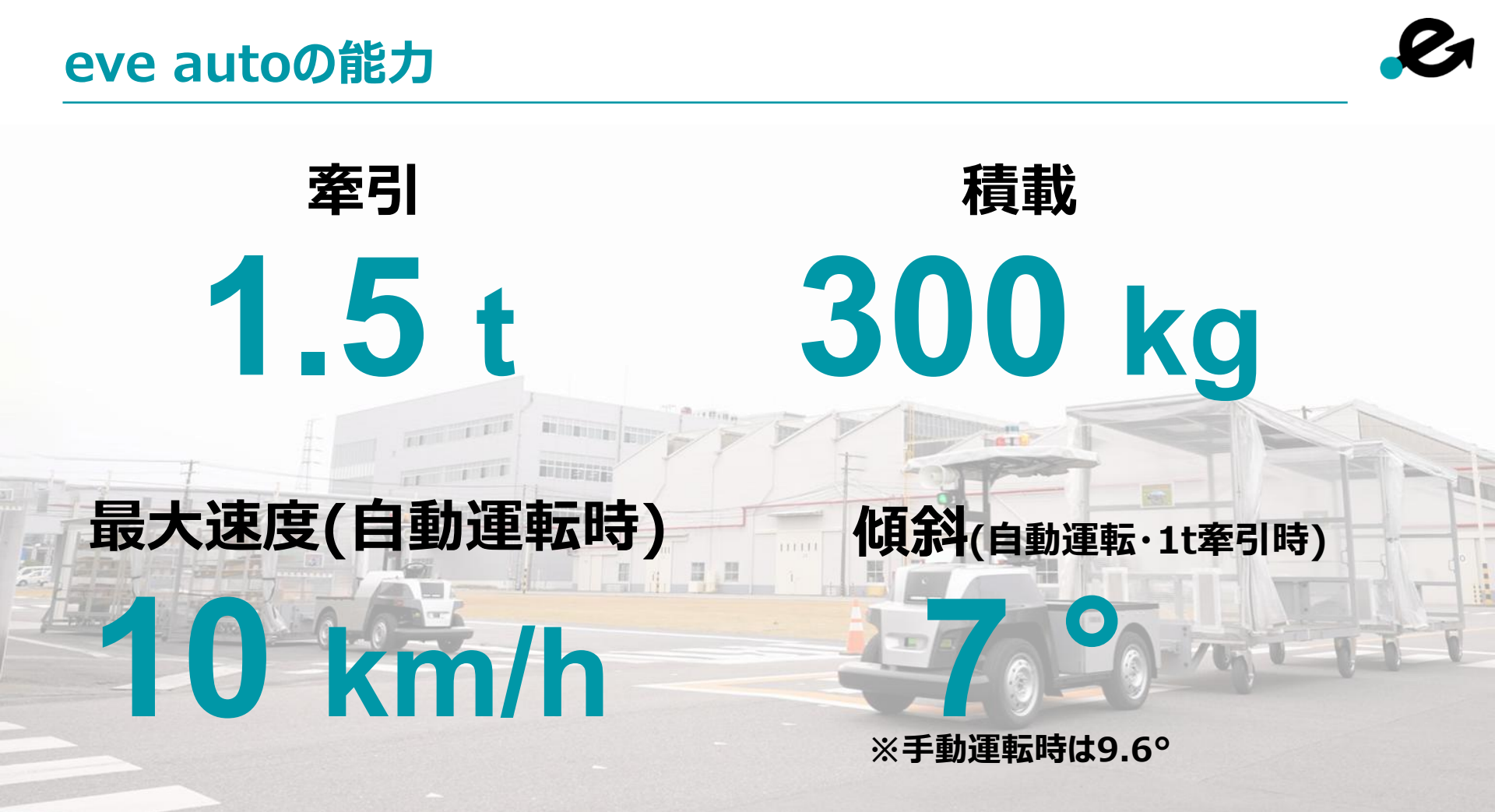




無人搬送ソリューションがオールインワンでパッケージ化された
サブスクリプション型のサービスです

© 2026 eve autonomy, Inc.

eve autoの能力



牽引

1.5 t

積載

300 kg

最大速度(自動運転時)

10 km/h

傾斜(自動運転・1t牽引時)

7°

※手動運転時は9.6°

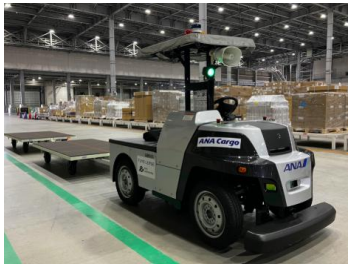
© 2026 eve autonomy, Inc.

空港領域：2つのアプローチ

アプローチ1. ゴルフカートベース車両

- 既に工場等で多くの活用実績がある牽引重量1.5t級の自動運転ゴルフカートを活用
- 貨物上屋間の搬送等、比較的搬送重量が低く、制限区域や公道の規制がかからない領域で導入





- 2026年２月、eve autonomy・芙蓉総合リース共同で初の空港案件となる**成田国際空港における ANA Cargo様の貨物上屋間搬送**を実現【後述】
- 貨物地区以外でも、整備関連やターミナルビルのバックヤードなど、様々なアプリケーションを模索中

アプローチ2. TT車ベース車両【開発中】

- 制限区域内を含め、広く空港領域における自動搬送ニーズに対応予定

COMING SOON

© 2026 eve autonomy, Inc.

自動運転技術を通じて、広く空港の搬送自動化に貢献します

- eve autonomyは、大規模空港やバゲージハンドリングに対応するためのトーイングトラクターや、貨物上屋などの他の用途でも活用できるゴルフカート型の自動運転車両をもって、**空港領域の搬送自動化にまつわるお困りごとを広く解決したい**と考えております。

- ソフトウェア・ハードウェアの技術、ファイナンス機能など、それぞれの強みを持つ**多様なパートナー様と協業**しながら、空港領域での自動化に貢献してまいります。

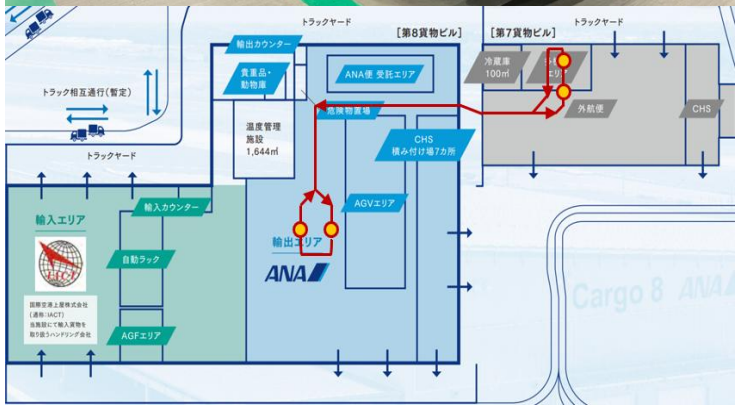
- 弊社の自動搬送ソリューションをユーザーとして、又は協業パートナーとして少しでもご興味をお持ちいただけましたら、是非ご連絡ください。

© 2026 eve autonomy, Inc.

芙蓉総合リースとの
空港における自動化の取組

【国内初】成田空港 ANA Cargo様での自動運転レベル4実用化





芙蓉総合リースについて

ベンダーフリーで効率化に伴走し、ファイナンス力で実装構造を整えリスクを軽減。
eve autonomy社と提携し、共同事業で自動搬送ソリューションを提供。
Gr.会社のワコーパレットや日本パレットレンタルを活用し、足元からの現場支援も。

成田空港 第7貨物ビル ～ 第8貨物ビル間 往復ルート

2026年2月19日より正式運用開始。
全日本空輸様 最大規模の貨物拠点 ANA Cargo Base+ 内。

導入前の課題

深刻な人手不足の解消・業務の省人化および生産性向上・
持続的な発展に向けたスマートな貨物上屋オペレーションの実現。

ソリューションと運用

芙蓉総合リースとeve autonomyが共同で提供するeve auto ReFineを導入。
第7・第8貨物ビル間の往復ルートにおいて、eve auto車両を用いた貨物の搬送を自動化。

実証された効果

1時間あたり最大24パレット(約4.8t)の安定した貨物搬送を実現。
今後、羽田空港への展開や需要に応じた増車も見据える。

© 2026 eve autonomy, Inc.
© Fuyo General Lease Co., Ltd. All Rights Reserved

現場に定着した3つの成功要因

01

インフラ工事不要

床面への磁気テープ敷設や外部ビーコン設置が不要。
既存の上屋間通路をそのまま走行できるため、現場運用を止めずに短期間で導入を実現。

環境変化に強い3Dマップ誘導

02

直感的な現場UI

タブレットのワンタップで行き先指定や発車指示が可能。
専門のエンジニアでなくとも、現場スタッフが初日から迷わず操作可能。

現場主導のオペレーション確立

03

有人車両との混在協調

LiDARによる全方位センシングで、歩行者や他のフォークリフトを正確に検知。
安全に一時停止・徐行し、事故ゼロの運用を。

最高水準のフェイルセーフ機能

© 2026 eve autonomy, Inc.
© Fuyo General Lease Co., Ltd. All Rights Reserved

空港DXを「PoC倒れ」にさせない実装スキーム

なぜ先端技術の現場導入は停滞するのか？

空港をはじめとする現場DXが進まない最大の障壁は、

「初期費用の巨額さ」「技術進化による陳腐化リスク」「導入後のアセット維持管理」 です。

「購入」か「リース」かという金融の議論ではなく、**事業者が安心して最新DXを段階導入できる仕組み**が不可欠でした。

【技術・運行】eve autonomy

レベル4自動搬送の技術と運用基盤

- 自律走行ソフトウェア
- 車両開発
- 定期アップデート
- 運行管制システム　　etc...

＋

【実装支援】芙蓉総合リース

アセットリスクの引受と社会実装支援

- 2次流通 / アセットノウハウ
- 事業リスクを負担
- 利用企業が1台から低リスクで導入できる「ReFine」サブスクモデルを共創　　etc...

技術と実装基盤が一体となることで、「まずは1台から検証し、確実に拡大する」DXの現場定着を実現します。

芙蓉総合リースは、製造・物流現場へのサービス提供で培った知見とアセットノウハウで、**貨物に限らない空港業務の自動化・省人化・効率化を推進します。**また、サブスクや従量課金など**柔軟なファイナンス機能でお客様の導入リスクを軽減。**

空港領域のみならず製造・物流をつなぐサプライチェーン全体の効率化を支援します。

© 2026 eve autonomy, Inc.
© Fuyo General Lease Co., Ltd. All Rights Reserved

AUTOMATION,
STARTING
TODAY

